

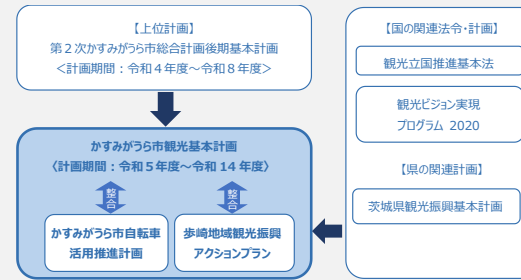
# かすみがうら市観光基本計画(素案) 概要版

## 計画策定の目的

- 本市が今後10年間で進むべき観光の指針として策定。
- 観光に関わる施設や事業者だけでなく、地域住民も含めて、「かすみがうら市の観光のこれから」をともに考えながら、一体となって観光振興を目指すもの。

## 計画の位置づけ

- 『第2次かすみがうら市総合計画』に基づく部門計画。
- 『かすみがうら市自転車活用推進計画』、『歩崎地域観光振興アクションプラン』を包含する観光のマスタープランであり、本市観光振興の旗印となるものとして位置づけ。



## 計画期間

- 本計画の期間は10年（令和5（2023）年度から令和14（2032）年度）
- 計画の適切な進捗管理及び社会経済情勢などの変化の把握に努め、5年を目途に必要な応じて見直し。



## 本市の現状と課題

### 論点① 観光資源の現状

| 果樹観光                                                                                                                      | サイクリング                                                                                                                          | 農水産業体験                                                                                                                               | 湖上アクティビティ                                                                                                           | ゴルフ                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 千代田地区に農園が集積。</li><li>● 土産としての果樹購入が減少。</li><li>● 「かすみがうら市＝果樹狩り」という周知が不足。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● つくは霞ヶ浦りんりんロードを中心に多数来訪している。</li><li>● 立ち寄りたくなる魅力的な食が求められている。</li></ul>                   | <ul style="list-style-type: none"><li>● ツアーコンテンツの収益化が課題。</li><li>● 農業体験での協力農家、圃場確保、漁業体験での時間（早朝の操業）への対応が課題。</li></ul>                 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 観光帆引き船の運営持続のための担い手確保が課題。</li><li>● 実施にあたり漁業者側との湖面利用の調整が必要。</li></ul>        | <ul style="list-style-type: none"><li>● 市外からの来訪者の多くがゴルフ場の来訪者となっている。</li><li>● 周遊が少なく十分に消費ポイントを創り出せていない。</li></ul>            |
| 歴史探訪・史跡めぐり                                                                                                                | キャンプ                                                                                                                            | トレッキング・ハイキング                                                                                                                         | 宿泊                                                                                                                  | おみやげ品・飲食                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 歴史好きの層に対して魅力的に訴求するコンテンツ・サービスが不足。</li><li>● 各資源に対して歴史的ストーリーの紐づけができていない。</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>● 4施設が市内に点在しており、利用者は増加傾向。</li><li>● アクセス性の改善が必要。</li><li>● 市との連携による宣伝・PRが十分でない。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 雪入山や浅間山においてハイキングコースが整備されている。</li><li>● サイクリストとハイカーの共存のための、マナーや安全面のルール化・環境整備の検討が必要。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 5つの宿泊施設があります。</li><li>● 各拠点での過ごし方を提案できるマップなどのツールや、観光コンテンツとの連携が課題。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 「湖山の宝」推奨品としてのプロモーションを展開してきたが、認知度が低い。</li><li>● 「霞ヶ浦の魚料理を食べたい」という需要への対応が不足。</li></ul> |

### 論点② 既存施設の活用可能性

- 農村環境改善センター、空き家、廃校などを効果的な運営方法で活用していくために、観光ニーズや市民ニーズに対応した利活用の方策を検討し、地域内での合意形成を図ることが必要。



### 論点③ 観光市場における新たなニーズへの対応

- 変化するニーズに対して、各事業者の努力により取組が進められているものの、その達成度にはばらつきがあり限定的である。
- 地域一体としての連携や意識の底上げが必要。



### 論点④ 市民・事業者の意識

- 現状では、市民が観光により実感する恩恵や良い影響が少なく、市民の観光への関心も低い傾向にある。
- 事業者の考えるコンテンツ・サービスを実現する環境整備が必要。

### 論点⑤ 交通アクセス

- 市内に点在する観光施設をつなぐネットワークが弱い。
- 交通手段の確保、わかりやすい案内が求められている。
- 特にバスルートの見直しによるアクセス性の向上が求められている。

### 論点⑥ 観光宣伝・PR

- かすみがうら市、観光協会による「湖山の宝」のブランディングやHP、SNS、マップ等、多種多様なツールでの情報発信が進められてきた。
- ターゲットの再考、デザイン性やストーリー性の向上などによる効果的なプロモーションが必要。

### 論点⑦ 体制・組織

- 現状ではかすみがうら市による事業企画のもと、観光施策が推進されている。
- 民間主導の事業推進を目指す一方、新しい事業を創出する事業者が少なく、コロナ禍による取組（イベント等）の中止等を背景に事業者主体の動きが弱くなっている。

## かすみがうら市の核となる価値

- 農水産物：観光果樹園での栗、梨、柿、いちご、ぶどう、ブルーベリーや、霞ヶ浦周辺でとれるレンコンや米、サツマイモ、ワカサギやシラウオ、その加工品である佃煮など
- 生産者：農業者、漁業者、加工製造業者など
- 生産現場：湖、山、田畑など

## 農水産物・生産者・生産現場



## 計画の目標数値

- 令和4年時点の現状値に対して、5年後の令和9年時点の目標値を達成することを目指して観光施策を推進。
- 令和9年時点での施策推進状況、社会的状況を加味して目標値の見直しを行う。



### 一人当たり観光消費額

■県内（市内を含む）からの来訪者の平均

|    |         |
|----|---------|
| R4 | 1,435円  |
| R9 | 約1,600円 |

■県外からの来訪者の平均

|    |         |
|----|---------|
| R4 | 2,345円  |
| R9 | 約4,000円 |



### 市民の観光に対する満足度

■満足の回答の割合  
（大変満足、満足、やや満足の合計）

|    |       |
|----|-------|
| R4 | 17.1% |
| R9 | 30.0% |

■不満の回答の割合  
（大変不満、不満、やや不満の合計）

|    |       |
|----|-------|
| R4 | 32.6% |
| R9 | 15.0% |

## 方向性と施策展開

戦略①  
観光資源を価値あるコンテンツにする

戦略②  
地域の事業者・住民の利益となる観光を目指す

《かすみがうら市の核となる資源、「農水産物・生産者・生産現場」の価値を活かす5つの方策》

### （1）市民理解、コミュニティの活性化

新たな生活様式への対応、市民の地域活動掘り起こしと観光プロジェクト化、市外コミュニティとの交流促進など

### （2）戦略的なマネジメント

Dx化への対応、プロジェクト推進体制の強化、ユニバーサルデザインの推進、観光リスクマネジメント、ターゲットに応じたプロモーション、プロモーション推進体制の強化など

### （1）湖と山が育む「食」の魅力創出

果樹観光の魅力化・収益化、かすみがうら産の食の価値向上、農業漁業、養殖、農水産加工などの現場との接点づくりなど

### （2）湖と山をつなぐ自転車の活用

サイクルツーリズムの充実、二次交通としての自転車活用の促進、健康づくりとの連動による自転車の活用促進など

### （3）「歴史・生活文化」を背景とした体験・体感の仕組みづくり

伝統行事・祭事の継承、歴史を軸としたまち歩きコンテンツ造成、歴史ガイド人材育成とその活用、帆引き船の体験魅力向上、地域の手仕事再生プロジェクトなど

### （4）湖と山の「自然環境・景観」の保全と共生の実現

ジオパークの活用、自然環境保全をテーマとしたコンテンツの創出、農業・集落の景観形成など

### （5）地域産業の持続的発展に貢献する観光拠点の整備拡充

果樹観光の拠点充実、歩崎の誘客拠点の充実、ワーケーションの誘致事業、宿泊の魅力化など

《かすみがうら市の資源価値を高める分野横断的な2つの方向性》

戦略③  
事業者・住民が自分事として取り組むための仕掛け・体制構築

## 計画の推進に向けて

### 1 市内・関係事業者の分野横断的な観光推進体制の構築

- 市関係各課、事業者、関連団体、市民・市民団体などのそれぞれの役割のもと推進

### 2 プロジェクト組成の仕組みづくり

- 様々なプロジェクトが生まれる環境づくり
- 事業実施のバックアップ、新たな事業への事業者の意向把握

### 3 観光施策の進捗管理の体制構築

- 本市の観光に関わる各分野の事業者参集による協議の場を設置
- 関係者間での共有を図り新たな事業や相互連携等のきっかけを創出